

長谷川 望牧師

- * 「わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合うこと、これがわたしの戒めです。」(ヨハネ15 : 12) 17節にも同じ意味のフレーズがあり、主の愛をよく理解した上であなた方も互いに愛し合いなさい、と言われる。
- * 人が自分の友のためにいのちを捨てること、これよりも大きな愛はだれも持っていません。わたしが命じることを行うなら、あなたがたはわたしの友です。わたしはもう、あなたがたをしもべとは呼びません。しもべなら主人が何をするのか知らないからです。わたしはあなたがたを友と呼びました。父から聞いたことをすべて、あなたがたには知らせたからです。(ヨハネ15 : 13 ~ 15) イエスはご自分が命じることを行う者を、もはや「しもべ」ではなく「友」と呼ばれる。イエスは私たちのために十字架にかかれ、復活して私たちに命を与えられた。その奥義を「友」には知らせているからだと言われる。
- * あなたがたがわたしを選んだのではなく、わたしがあなたがたを選び、あなたがたを任命しました。それは、あなたがたが行って実を結び、その実が残るようになるため、また、あなたがたがわたしの名によって父に求めるものをすべて、父が与えてくださるようになるためです。(15 : 16) イエスは「友」と呼ぶ者をご自分が選ばれる。12弟子を見てもわかるように、イエスが選ばれるのは、いわゆる立派な人ではなく、一見資格がないようなものを選んで遣わされるのである。
- * もしもイエスが、私が示した十字架の犠牲の愛、一方的な愛と同じ愛を完全に実行しなさいという命令ならば、私たちはたじろぎ、絶望しかないだろう。しかし、「私あなたがたを愛したように」(15 : 12) とは、「それほどあなたがたを愛したのだから」という意味ととれば、少しでもそのイエスの愛に近づいていくようにしたい、と思う。そのために、「イエスの名によって求めるものを何でも与えてくださる」、いわゆる祈りが、イエスを信じる者に与えられているのである。こうして主イエスの愛を知ったものがどんどん増えていくことによって「互いに愛し合うこと」が可能になるのである。そのためにまず必要なのは、自分のために使っていた時間や、お金や思いを人に向けて用いることである。そして、ゆるしと謙遜の心を持ち、常にとりなしの祈りをささげながら生きたいものである。